

## 中部経済産業局 井内 摂男局長インタビュー

# 競争力強化の好機である今 すそ野となる産業・人材の育成を

東海地方を世界最強のものづくり先進地域へと導く地方版成長戦略「TOKAI VISION」を推進し、産官学の連携、また北陸を含めた広域連携などを呼びかける中部経済産業局。その局長である井内摂男氏に、前年度の総括と、今後の見通しについて聞いた。

(聞き手／中部財界フォーラム社塚本隆代表取締役)

——二〇一四年度の経済動向と今年度の見通しについて。

**井内** 緩やかな経済回復が続きました。それを引っ張っているのは、主に北米向けの工作機械や電子部品などの輸出です。消費は駆け込み需要の反動減が予想より長引き、現在回復しつつあるものの、住宅など一部は戻りが厳しい状況です。生産は引き続き緩やかに回復するとみられ、消費については

政策効果や賃上げなどの良い影響が行き渡れば緩やかに回復して行くのではないかと思います。

業種によりますが、ここ数年で全体的に景気が好転していることは、企業の決算上の数字からも、賃上げからもうかがえます。アベノミクスは全体として政策効果を発揮していると思います。経済が製造業中心に回り始め、輸出も数量的に増えています。航空機をは

じめとした新産業の効果もありますが、円安で競争力がついている面があるのは明らかです。政府の補助金も設備投資に結びついており、機械メーカーは中小を含め受注増となっています。

——東海地区については。

**井内** 全国から見ても羨まれる地区です。もともと産業基盤が強く、自動車等の機械産業を中心としたすそ野が広がっており、加えてFCV、MRJ、リニアなど新しいプロジェクトも発信されています。今後航空機産業等の生産増を支えるためには、スキルを持つた人材の確保や教育が必要でしょう。同時にロボットや機械による省力化も必要だと思います。

中長期的経済成長をもたらすのは人材です。様々なものづくり技術やノウハウはありますが、それを超えるものを作れるのが人です。愛知県では昨年技能五輪が行われましたが、研究開発を行う大学や大学院卒の人材から、それを実現する技能を持った人材まで、どれだけ人材を確保できるかがカギになってくるでしょう。

この地方には機械産業の他にも高機能繊維やクオリティの高い毛織物など、円高でも生き残ってきたオンリーワンの技術があります。新しいニーズに合った高い付加価値を産出していくべきだと思います。

——一方、この地方は観光面が

弱いですが。

**井内** ものづくり地域のため、人材も資源もそちらに投入しがちで、観光産業は他地域に比べて出遅れています。しかし建造物や武將ゆかりの地など優れたコンテンツはあります。東海北陸のパイプを強化して、もう少し広がりを持って面的に発信していけばポテンシャルは十分あると思います。もっと危機感を持って努力し、うまく外部の目を取り入れて地域の強みや弱みを把握し、地域主体で実現していくべきでしょう。

経産省も市町村が考えた一押しの名産品を応援しようと支援を始めています。しかし何を売りにしていくのか考えるのは地方です。それぞれが必死で考えるならば、良いものは見つかりますし、支援も得られるものだと思います。この地域には歴史に根差した文化や伝統工芸、祭りなどが集積しています。ローカルには様々な良いものが残っているのです。それを今後どう可視化していくかが課題です。また、なごやメシに關しても決してB級ではない、世界への



井内 撰男 (いうち せつお)  
昭和三十五年五月十日兵庫県生まれ。同五十八年東京大学法学部卒、通商産業省入省。平成十三年二〇〇五年日本国際博覧会協会企画調整グループ長。同二十二年経済産業省大臣官房審議官(経済社会政策担当)。同二十三年独立行政法人日本貿易振興機構バンコク事務所長。同二十六年八月より現職。

訴求力を持ったユニークなグルメだと思えます。それら文化力は劣っていないので、もっと世界に発信していければと思います。

——今後の懸念材料は。

**井内** 北米の好景気に依存している面があります。新興国や資源や消費の落ち込みに伴い低調となつていますが、近く再成長すると思えます。観光その他の産業に影響する地政学的リスクについても注視が必要ですが、ただちに大ダメージにつながるおそれは小さ

いでしょう。原油安は消費国として全体的にみて追い風となつていきます。余裕が出ている今のうちに、それを競争力強化のためどう使うかですね。

——東海地域の成長戦略「TO K A I V I S I O N」について教えてください。

**井内** かつての「中部地域八ヶ岳構造創出戦略」を吸収・発展させた広域的な東海地域における成長戦略で、自動車や航空機、ヘルスケア、環境などを含めた次世代産業の創出や産業競争力強化を

図っていくものです。その柱を支えるためには、すそ野産業の競争力を維持する「ものづくりマザー機能」の強化が課題としてあります。現在「東海北陸連携コンポジットハイウェイ構想」により、炭素繊維複合材に関する研究開発から生産・加工・組立までを行う世界に冠たる一大拠点・産業集積の形成を目指して取り組んでいます。ビジョンを打ち出すだけでなく、実際に行っていくことが大事だと考え、アクション・プランの実行に力を入れています。

他方、前向きな産業に取り組みと同時に、防災・減災対策も大事です。災害のインパクトを減らし、住民はもとより企業を守るためBCPを作ってもらおう活動を行い、企業が連携して助け合う方法を模索しています。例えばコンビナートが被災した際、安全停止に必要な要素を融通し、設備や情報を共有するための協力体制の構築を促しています。昨年作った地域連携BCPのモデルを基に他地域にも面的にやっつていこうと呼びかけています。